

乗り物

子ども園せいび

吉成 那津子

うみぐみ（3歳児クラス）

テーマとした理由や背景

- ・ 電車や車で遊ぶことが多く、その魅力は何だろうと考えた。
- ・ 自分で好きな乗り物を作るのはどうかと考えた。
- ・ 乗り物から、道路やトンネル、橋、標識、地図など、他のものにも興味が広がっていくのではないか。

子どもの様子①（10月18日）



保育室にある救急車や電車の模様をプリントした牛乳パックの玩具。取り合いになることも多かった。どうしても救急車が使いたかったRくん。そこで、一緒に作ることにした。牛乳パックに画用紙を貼り、模様が描けるようにするが、保育者に描いて欲しいという気持ちが強く、ペンを一緒に持ちながら描く。完成すると、それで遊ぶのかと思っていたが、作ったことで満足したようでその後は興味がなくなった。



Rくんの様子を見て、自分も作りたいとのこと。初めは保育者に描いて欲しいと訴えるが、「これ、どうなってるのかな？」と話しながら、実際に見本を見せると、自分で描き始める。少し線がずれることで、「違う」と言うこともあったが、「大丈夫だよ、いいね。」と声を掛けると、そのまま続けていた。Rくんも、作り終わるとそのまま自分の製作バックに片付けていた。

期待する経験

- ・自分で工夫して作ろうとする。
- ・認めてもらうことで自己肯定感を高めていく。

環境設定

牛乳パック、ハサミ、のり、セロテープ、色鉛筆、ペン、画用紙、折り紙など。

振り返り

- ・救急車を使いたかったようだが、作ったもので遊ぶことはなかった。興味が移っていったといえればそれまでだが、自分で作ったもので遊ぶ面白さを感じられたらいいと思った。

子どもの様子②（10月23日）



環境設定

牛乳パック、ハサミ、のり、セロテープ、色鉛筆、ペン、画用紙、折り紙、車輪、いろいろな形の紙類、ガムテープ

期待する経験

- ・自分で工夫して作ろうとする。
- ・認めってもらうことで自己肯定感を高めていく。



消防車のはしごを切り絵のように紙を折って切ったはしごを作る子どもと、段折りをしてはしごにしている子どもがいる。自分でイメージしたものをそれぞれが工夫して作っている。

いつもは製作にはあまり興味がないAくん。「Aくんもやる。」と牛乳パックを手にして作り始めた。ハサミを使って細く切ったり、のりを使って貼ったりと、手先を器用に動かして作っていた。完成すると嬉しそうな笑顔で「できた」と見せてくれ、大事に飾っていた。

振り返り

- ・素材を増やしたことで、製作意欲が上がったような気がした。また、普段は製作コーナーに姿を見せない子どもも、興味がある題材だと参加しており、子どもに興味を持ってもらうには、どうしたらいいのかを考える必要性を改めて感じた。



子どもの姿から（10月24日・10月30日）



「先生、車を走らせたら面白いよね！」「滑り台だとすごいスピードなんだよ！」「ここにライトを付けてみた。」「〇〇くんのやつは、もっとすごいんだよね。」

こうやって、自分で作った車を昨日よりもカスタムし、実際に走らせて遊び始める。



荷物が運べるようにと、牛乳パックの上部に切り込みを入れて作っていた。それを見て、「どうやって作ったの？」と作り方を聞きながら、一緒に作り始める。それが、次々に広がっていき、トラックがたくさん完成した。

振り返り

- ・土曜日でいつも一緒に過ごす5歳児の子どもの刺激を受け、同じように作ってみたい、やってみたいという気持ちが強いようだ。でも、自分は同じようにはできないこと、それを自覚しつつ、5歳児を「すごい」と尊敬している。そのような、憧れの存在がいることも、園生活では大事なのかもしれないと感じる。
- ・子ども同士の関わりの中で、真似したい、同じように作ってみたいなどの気持ちが生まれてくるのかもしれない。

子どもの姿から ～なりきり～

園庭で遊んでいると…。

落ち葉掃除を始める。その時に、箒よりもマットを使って集める方が一度にたくさん集めることができると気が付いた。子どもたちにも「見て、こうして集めて、このまま掴んで袋に入れられるよ。」と声を掛けると、「本当だ！」と、マットをショベルカーのように使って、「ウィーン、ガシャン。」と言いながら、集め始める。それもまた、「私もやる～！」と自分でマットを持ってきて作業する子どもが増えていく。「こうすると面白いね。」「こんなにいっぱい集まったよ。」「これに乗せる！」と、自分で作った牛乳パックのトラックの荷台に積み込む姿も。



振り返り

- ・ 何気ない遊びの中でも、乗り物になりきって遊ぶだけで、掃除が面白くなる。遊びの要素が大事だと改めて感じる。

子どもの様子③（11月20日）



子どもから、「〇〇みたいなのが作りたいんだ。」と姉が作ってきた木の車が作りたいと相談を受ける。アトリエにある素材を準備して作り始める。どういう形にしようかを考え、ボンドでくっつけていきながら、「色もあるとかっこいいんだよね。」と、ポスカで色をつける。

「この丸いやつはタイヤになるかもしれない。」「本当に回るタイヤが作りたいんだ。」「釘を使えばいいんだよ。」と、トンカチと釘でタイヤ部分を作っていく。

それを見て、周りの子どもたちも集まり始め、自分の好きなものを作り始めた。釘を打つということをひたすら繰り返す子ども、「これ、カメラ！」とHちゃんが作ると、「私もカメラ作りたい！」と、真似して作り始める。



環境設定

木材、コルク、釘、トンカチ、ボンド、ペットボトルの蓋、ハサミ、のり、セロテープ、色鉛筆、ペン、画用紙、折り紙など。

期待する経験

- ・イメージしたものを作ってみようとする。
- ・道具の使い方を知る。

振り返り

- ・いつもと違う素材を出すと、それに興味を持って集まってくる。何かを作るといよりは、触ってみたい、やってみたいという気持ちが強いように感じた。それでも、その素材を手にして、その子どもなりの物との関係が生まれていることに気が付く。釘を打つときの力加減、打つ位置、持ち方、音など、様々なものを感じていることがわかった。

子どもの様子④ (12月11日)



環境設定

- ・ 子どもたちが自分たちで作ったものを置けるスペース確保
- ・ 牛乳パックの乗り物玩具
- ・ 木の乗り物の玩具 (台数を表示)
- ・ 乗り物のイラスト図鑑を表示

今までは自分たちで作ったもので遊ぶことが少なかったが、いろいろなものを組み合わせて遊ぶ姿が出てきた。また、数字を表示することで、数を数えたり、「〇個使っていてずるい」など、具体的に伝えるようになってきた。

期待する経験

- ・ 友だちとイメージを共有しながら遊ぶことを楽しむ。
- ・ 乗り物を通じて、形、数、などに興味を持つ。

<散歩へ>

車で遊んでいる際に、タイヤは何個ついているのかという話になる。そこで、実際に車には何個タイヤが付いているのを見に行ってみようと、タイヤ探しの散歩に出かけることにした。園の駐車場に停まっている車を確認。「4つだね。」「バイクは2個だ!」「待って、ベビーカーは8個だよ。」「この車は後ろにもタイヤが付いてるから5個だ。」「でも、このタイヤはパンクした時に使うんだよね。」





見晴らし橋まで行くと、トラックやバス、警察車両も見ることができた。すると、大きなトラックが通っていく。そのタイヤは8個。でも、子どもたちから見えるのは片側の4個のみ。「4個だ〜！」と叫ぶ子どもの中で、「1、2、3、4だから…8個だ！」という声も上がる。見えない反対側にもタイヤがあることがイメージできているのだ。



さらに進んでいくと、道路に停車していた大きなトラックには10個付いていた。こちら側から見えるのは5個。その子どもに「何個付いてる？」と尋ねると、「1、2、3・・・8、9、10個！」と、やはり分かっていた。「どうして分かったの？」「だって、裏側にもあるでしょ。」とのこと。

振り返り

- ・ ごっこ遊びやイメージ遊びが増えてきた。また、大人の行動に興味を持ち、それを遊びに取り入れている場面も増えてきた。そういう経験を通して、数、形、空間認知を広げているのだろうと感じる。

子どもの様子⑤ (3月4日)



いつものように、朝にみんなで集まる。その時に保育者がはなぐみ（2歳児クラス）の子どもたちと絵本を見ながら、バスと電車の違いは何だろうという話になったことを伝える。

すると、「電車は線路で、バスは道路を走るよね。」「バスはタイヤで電車は車輪かな。」「タイヤの数。バスは4個。電車は何個だ?」「バスはバス停に停まるけど、電車は駅に停まるよね。」「ライトがあるのは同じだね。」「バスのタイヤは大きいけど、電車は小さい。」「電車の方がタイヤの数が多いんじゃない?」と、違いを考える

環境設定

- ・ 話し合いの時間
- ・ 12月より、固定メンバー（11人）での集まりになる。
（ゴゴゴゴれいぞうこチーム）



園庭へ。砂場に行くと足跡で円を描くと「線路みたいだね。」と、そこから電車ごっこへ。

「カンカンカンカン。踏切です!」と、踏切役になる子どももいた。その立ち位置もよく分かっており、電車が通る線路沿いに立っていた。

期待する経験

- ・ 自分の考えを伝えたり、友だちの話を聞こうとする。

振り返り

- ・ 子どもたちが、自分の考えをみんなの前で発言し、その意見を聞きながら考えている姿に成長を感じた。
- ・ 電車の話をしていたからこそ、砂場での遊びに発展したのだろう。そこでイメージを共有して遊べる年齢だからこそ、やり取りが面白くなっていくのだ思った。

子どもの様子⑥ (3月6日)



今日もいつものようにゴーゴゴーれいぞうこチームで集まる。そこで、「バスってどうやって乗るんだろうね?」と問いかける。そこからバスごっこへ。

「椅子があるから、これ並べよう。」と椅子を設置。「運転席はここね。」と言いながら、ハンドルを探し、ままごとコーナーのザルをハンドルに見立てる。

「乗る時にピッてするよね?」と、携帯をかざすことも知っている。「じゃ、ここにピッてしよう。」と、専用の台も準備する。

「あ、シートベルトもしないとダメだよね。」と、チェーンを持ってきて腰に当てる。

「次は、南大沢駅前です。お降りの方は忘れ物などないようご注意ください。」「ピンポン!」「降ります!」「お菓子買ってくるから。」「ねえ、次どこに行く?」など、運転手とやり取りしながらバスに乗り降りする子どもたち。バスのドアもスライド式にしている。

環境設定

話し合いの時間、バスごっこができる空間

期待する経験

- 友だちと一緒にやりとしながらごっこ遊びを楽しむ。



「ピンポンも作ってみようかな。」と、保育者が土台を作ると、「私も!」とすぐに作り始める。「こんな感じだよね?」と言いながらも、色や形にこだわりがある。完成したもののから早速バスに設置する。



バスの中に乗り物の図鑑を何冊も持ってくる。「もしかして、バスに乗ってるから?」と尋ねると「うん」と頷いて、図鑑を見始める。

振り返り

- それぞれの考えを持ち寄りながら、「こうだよね。」と、イメージを共有してやり取りをすることに面白さを感じているようだ。保育室にあるものを使って、それぞれが「これは〇〇ね。」と遊びに取り入れていることにも関心し、何も準備しなくても、子どもたちの思いで何にでも変化するのだと子どもたちの力に脱帽する。

子どもの姿から ～ごっこがたくさん～



テラスにある牛乳パック積み木を使って、乗り物ごっこ。「ここが、運転するところで、レバーがあるよ。」「じゃ、行ってきま～す。」



「先生、ちょっと来て！」と声が掛かり行ってみると、「これ、スポーツカーなんだ。ここが乗るところ。」と、教えてくれた。そこに、「私も乗りたい」とやってきた女の子たち。「いいよ、じゃ、こっちに乗って。」「どこまで行く?」「アリオにしない?」「いいね。」「出発します!」と、乗り物ごっこが始まる。



馬とタイヤ、板を組み合わせて作った車。これは、マリオカートの車とのこと。運転席に乗って操縦したり、マリオになりきって「ポーン!」と斜面を滑って攻撃してみたり、ここでもごっこ遊びが広がっていた。

それを見ていた子どもも、「こっちもスポーツカーだからね。」と、お互いの車に乗り合う姿もあった。

散歩より (3月17日)



内裏谷戸公園への散歩。

ここはいつも子どもたちがバスを見るためにやってくる。京王バス南大沢営業所があり、バスがたくさん停車している。また、子どもたちからは見えにくいかもしれないが洗車、ガソリンを入れていることも時々ある。



そこでバスを見ている時のこと。「バスに乗ったことある?」「あるよ。」「バスってさ、どこで乗るんだっけ?」「バス停があって、そこから乗るんだよ。」「バス停って、どこにあるんだろう?」「道路の近くにあるよ。」「あれだよ! あっちにあるよ。」「見に行ってみる?」ということで、バス停を見に行くことになった。

「ほら、これだよ。」「ここにはさ、何時にきますっていう時間が書いてあるんだよ。」「スマホでピッてやると、バスがどこにいるのか分かるんだよ!」

子どもたちが経験し、知っていることをたくさん話してくれる。子どもたちの乗り物が身近にあることがよく分かった。



子どもの様子⑦ (3月18日)

環境設定

散歩 (バス停探し)



昨日の散歩でバス停を見ていない子どももいたので、一緒に見に行くことにする。場所を知っている子どもが、「こっちだよ。」と案内してくれた。

「知ってる!」「ここってなんて書いてあるの?」

「数字が書いてある!」

「他にもバス停はあるのかな?」と、少し歩いて探してみる。歩いていくと、またバス停を見つけた。

「あ!あれだ!屋根がついてる!」と、先ほどのバス停とは違うことに気が付く。

「あ、ここ知ってるよ。こっちにもバス停あるよ。」と、自分がよく乗るバス停の場所を教えてくれる。ちょうど、向かい側にバスが来た。「あ!すごい!人が乗ってるね。」と、乗車する場面も見ることができた。

振り返り

・バス停探しの散歩では、子どもたちがバスに乗りたいという気持ち、バスに対する興味がより増してきたように感じる。もう少し子どもたちとバスについて、一緒に考えていけたらと思う。

期待する経験

・バス停というものがあることを知り、その役割などを知る。



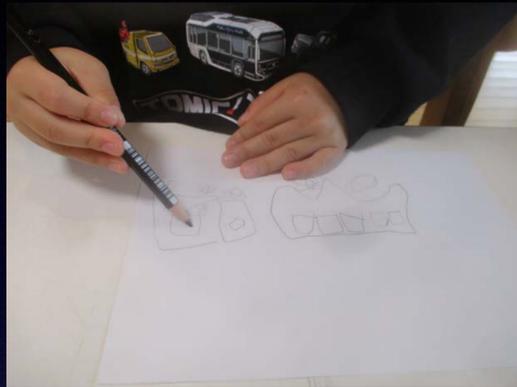
バス停探しの帰り道。うずまき公園に寄り道しながら帰る。

うずまき公園の溝が道路になり、「出発します!」「乗ってください。」とバスごっこが始まる。

運転手が走り出すので、お客さんもそれについて行こうと「待って~!」と走り出す。

「あ、あそこがバス停かな。ここで待とう。」と、公園の表示のところでお客が待つ。「どうぞ。乗ってください。」

子どもの様子⑧ (3月19日)



子どもたちとバスの営業所に行き、バスを間近で見たり、乗せもらえるようにと連絡をしていたのだが、その日はあいにくの雨。営業所に行くことができなかった。別日はどうかと相談したが、都合がつかずに今回は行くことを諦める。

「え～。行けないの?」「でも雨だから仕方ないよね。」「でも、バスに乗りたいな。」とのこと。子どもたちのバスに乗りたいという気持ちがおさまらないので、営業所に行くのではなく、お客さんとしてバス亭に並んで乗るということもできると考え、子どもたちと相談する。

副園長に頼んでみようかと、事務所へ向かうが副園長は不在。一度戻り、その気持ちを伝えるために、みんなで手紙を書くことにした。文字が書けるようになった子ども、絵を描いて伝えようとする子どもと、表現方法は様々。乗りたいという気持ちは伝わるだろうと、仲間先生へと手紙を託した。

そして、副園長からバスに乗るための許可を得た子どもたち。

「やった～!バスに乗れる!」と笑顔であった。

環境設定

話し合いの時間

期待する経験

- 自分の考えを伝えたり、友だちの話を聞こうとする。

振り返り

- バスに乗ることが最終目的ではなく、バスのタイヤの大きさだったり、バスの中の機械、仕組みなどを一緒に調べたり考えていきたいと思っていたが、予想外の展開。子どもたちが手紙や絵を描いて、自分の気持ちを伝えようとしたことにも成長を感じる。

子どもの様子⑨（3月26日）

バスに乗る前にみんなで話したこと・・・

「周りのお客さんがいるから静かに乗る」

「絶対に座れるわけではないこと。座れる人と、座れない人がいる」

「立っている時はきちんと掴まる」

「運転手さんへ挨拶する（お願いします、ありがとうございました）」



環境設定

おにぎりの日散歩 バス乗車

期待する経験

- ・公共交通機関を使うときのマナーを知る。



三徳プラザ前→南大沢駅まで

バス停で待っている時、「なんかドキドキするね」「まだ来ないかな」とワクワクしている様子が伝わってくる。バスが来ると、周りのお客さんもいることもあり、静かに乗車。でも、「みて～!」「ちゃんと掴まるね。」「なんか揺れるね。」「ここ、来たことある!」と、慣れてくると声が大きくなってくるが、「静かにするんだよ。」「あ、そうだった…。」

乗っていることが嬉しく、アナウンスまで気が回らずにあっという間に終点の南大沢駅前。「次はもう南大沢駅だよ。」と伝えると、「え～!」と驚いていた。降りる時は、周りのお客さんの迷惑にならないように、最後にみんなで降りる。降りる時は後ろのドアからだったが、「ありがとうございました!」の声が響いていた。

振り返り

- ・バス乗車に関して、事前に調べていたことと異なることがあり、少し手間取ることもあったが、無事に乗ることができた。子どもたちも、ここからまた乗り物への興味、関心が広がっていければと思う。また、公共交通機関を使うということでのマナー、地域の人との触れ合い、そういう機会も増やしていけたらと感じた。



まとめ

- ・ イメージの世界を楽しむ。イメージを共有して遊ぶことができる。ごっこ遊びの世界。
- ・ 生活のいろいろなことを取り込んで遊んでいる。
- ・ 数、形に興味
- ・ やってみたい、触ってみたい

自分が当初予想していた方向とは違い、地図や標識というところまでの興味までは広がらなかったが、子どもたちが何かを作りたい気持ちが強いこと、周りの友だちの姿を見て「やってみたい」と感じることで、イメージしたものを作るにはどうしたらいいのかを自分なりに工夫していることなどがよく分かった。

子どもの姿から、こういう部分には今は興味があるのかということを探りながらの探求活動になってしまい、この進め方が良かったのかが分からないが、乗り物を通じての、3歳児ならではの身近なものを取り入れながらの、ごっこ遊びの世界を楽しめたように感じる。

バスについて、乗り物についてはまだまだ探っていけるものがあると思うので、これで終わりということはないと思っている。この経験を踏まえて、これから先も子どもたちといろいろなことを一緒に考えていきたい。



「先生、みて。バスだよ。」
(バスに乗った後に描いて見せてくれた絵)